

徳川園牡丹祭小学生中学生俳句大会入選作

徳川園管理事務所 5月25日

部門	中学生	中学生	中学生	中学生	中学生	中学生	中学生	小学生	小学生	小学生	小学生	小学生	小学生	小学生	小学生
区分	入選	入選	入選	入選	入選	最優秀	最優秀	入選	入選	入選	入選	入選	入選	最優秀	最優秀
句	帰り道心をいやす桜道	雀の子群れでとびけり春一番	町かざる牡丹にみとれ笑みこぼれ	復興を見守る数ほど桜咲く	月の下猫が寝そべる春の夜	さくら咲きあつというまに受験生	冬耐えし牡丹のごとく我咲かん	牡丹の芽明るい赤にそまるかな	タンポポをしゃがんで見る背のあたたかさ	大笑いしてる家族に花吹雪	ひっそりと春をよろこぶシヤガの花	ひなまつり私の未来ゆめを見る	さくらさくわたしもひととおねえさん	花びらのかざりをつけて泳ぐコイ	春かぜとおどるはなびらたのしそう
学校	富士中学校	富士中学校	富士中学校	富士中学校	矢田中学校	矢田中学校	富士中学校	砂田橋小学校	旭丘小学校	旭丘小学校	東白壁小学校	矢田小学校	東白壁小学校	旭丘小学校	筒井小学校
学年	3	3	3	2	2	3	3	6	6	6	5	3	2	4	2
氏名	杉浦友弥	鰐部貴之	藤田ひなの	水谷晶	島田風子	日比野沙保	加藤あまね	成瀬うらら	守山輝一郎	伊藤かこ	中村桃子	古川ひまり	青山千奈	草間美咲	岩田渚
ふりがな	すぎうらゆうや	わにべたかゆき	ふじたひなの	みずたにあきら	しまだふうこ	ひびのさほ	かとうあまね	なるせうらら	もりやまきいちろう	いとうかこ	なかむらももこ	ふるかわひまり	あおやまゆきな	くさまみさき	いわたなぎさ

平成24年5月25日

徳川園牡丹祭小学生・中学生俳句大会 選考結果について

徳川園管理事務所

平成24年4月28日から5月6日まで「徳川園牡丹祭」の一環として開催した「小学生・中学生俳句大会」は、投句数にして272句のご応募をいただきました。たくさんの方々のご参加、誠にありがとうございました。

審査会を行った結果、最優秀作品小学生の部2句、中学生の部2句、入選作品小学生の部6句、中学生の部5句を、別紙のとおりに決定いたしました。

審査会委員（五十音順）は、以下のとおりです。

井澤 昭雄（四日市中日文化センター講師、ともしび詩舎同人）

加藤 啓子（公益財団法人徳川黎明会 徳川美術館企画情報部課長）

桐原 千文（名古屋市蓬左文庫 文庫長）

岩瀬 伸夫（公益財団法人名古屋市みどりの協会 徳川園管理事務所所長）

審査会委員の講評をお知らせします。

最優秀作品・小学生の部

「春かぜと おどるはなびら たのしそう」

名古屋市簡井小学校(東区) 2年 岩田 渚(いわた なぎさ)さん

サクラの花びらが散りはじめた頃でしょう。小さな作者の目には、春のやわらかな風を受けて舞い落ちてくる花びらがまるで春の妖精^{ようせい}たちのダンスに見えたのかも知れませんね。

いつの間にか作者自身も夢中^{むちゅう}になってそれを追いかけていた、そんな情景^{じょうけい}が目に浮かびます。（審査員 岩瀬 伸夫）

「花 びらのかざりをつけておよくこい」

名古屋市立旭丘小学校(東区)4年 単間 美咲(くさま みさき)さん

徳川園の龍仙^{りゅうせん}湖畔^{こはん}に咲く桜の花びらが風で飛ばされ、湖面にはらはらと散っています。水中を泳ぐ緋鯉^{ひごい}の群の上にも花びらが散り、その花びらを鯉の飾りと表現

したのは新鮮な着^{ちやく}眼^{がん}です。色とりどりの鯉と花びらの饗^{きやう}宴^{えん}が目に浮かびます。

（審査員 加藤 啓子）

最優秀作品・中学生の部

「冬耐えし 牡丹のごとく 我咲かん」

名古屋市立富士中学校(東区) 3年 加藤 あまね(かとう あまね)さん

牡丹祭、牡丹は百花の王と呼ばれる花の中の花、市内随一の牡丹園を訪れた作者は、折から満開の牡丹の花に自分を重ね合わせ、来年の受験を控えてその心境をこの句に託されました。

牡丹は厳しい冬の寒さに耐えて初めて美しい大輪の花を咲かせることができます。牡丹の場合はそれを休眠打破と言っていますが、人間も同じ、厳しい勉強努力の結果は必ずあらわれます。力強いその意気込みが伝わって来ます。(審査員 井澤 昭雄)

「さくら咲き あっというまに 受験生」

名古屋市立矢田中学校(東区) 3年 日比野 沙保(ひびの さほ)さん

さくらの開花は、受験合格、そして入学、進学、進級を象徴します。緊張感と晴れやかな思いで、桜を見上げた初々しい一年生は、何度かさくらが咲いて、受験をひかえた3年生となり、少し冷めた目でさくらを見上げているようです。この一句に、最上級生としての自負と受験への秘められた闘志が絶妙なバランスで表現されています。(審査員 桐原 千文)

総 評

徳川園牡丹祭の俳句大会に参加していただいた小・中学生の皆さん、どうもありがとうございました。

今回の俳句大会は昨年秋に次いで第2回目となります。応募作品の数は第1回目に比べ少なかったのですが、寄せられたものの中には目を見張るものが沢山あったと感じています。

今回のテーマは「春」でしたので、花を詠んだ句が圧倒的に多かったのですが、その中にも昨年の震災からの復興を強く願うものや、受験生の心境を重ね合わせたものもありました。

審査に当たりましては、学年による国語力に違いがあること、俳句の専門的な決まり事にこだわらないこと、などを考え合わせ、審査員の先生方で公正に選考して頂きました。最優秀作品はもちろんのこと、他の入選作品や選に漏れた作品の中にも、とても魅力にあふれ、心を揺さぶられる言葉に満ちた作品も多くあったように思います。

さて、徳川園および徳川美術館、名古屋市蓬左文庫は尾張徳川家由来の歴史文化施設として知

られています。いずれの施設も中世武家文化の魅力とその楽しみ方を市民の皆さんに発信していくことを使命としています。このような自然、歴史、文化で結ばれた環境の中で、しかも中世日本が生んだ「俳句」という世界に誇る文学的手法を用い「季節の描写」をすることの意義は大きいと考えています。小・中学生の皆さんにとって、自然を愛し言葉を慈しむ良い機会になったことと思います。

私は常々「美しい言葉を大切に使うことは、自分と自然と人とを愛で結ぶことにつながる」と考えていますが、今回参加された皆さんが少しでもそう感じてもらえたら俳句大会の関係者としてこの上ない幸いです。

最後に、今回の大会で小・中学生の皆さんに助言やご指導をしていただいた保護者、学校教員の方々に対しても厚く御礼を申し上げます。今後も子どもたちが自らの感性や想像を言葉に表現する楽しさにご一緒に参加していただけることをお願いいたします。

入選された生徒さんへのお知らせ

1、入選のお知らせ

順次、ご自宅へ郵送にてお知らせいたします。

2、表彰式

以下の日程で行います。ご家族とともに、参加してください。

日程：7月1日（日） 10：30～1時間ほど。

会場：ガーデンストラシ徳川園ガーデンホール（ガーデンストラシ徳川園内 B1 階）

その他： 欠席となる時は、下記にお知らせをお願いします。

3、この事についてのお問い合わせは、

徳川園管理事務所 三浦 935-8988 まで、お願いします。